



「イケあい」のメンバーが作った「希望 信じて」の文字(高知市池の高知県立大)

## 医療センターへ応援文字

コロナ禍 県大生 コーン並べ

高知県立大の学生が池キャンパスの2階テラスにサッカーで使うコーンを並べ、数日ごとに言葉を作っている。同大と道路を挟んで立つ高知医療センターの建物から見える場所。「感謝」「希望信じて」…。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、医療従事者への感謝や地域住民への応援の気持ちを込める。

防災サークル「イケあい」のメンバーが、コロナ禍の中で自分たちができることをしようと企画した。同センターからもはつきり見えるよう、サッカーの練習などで使うマーカーコーンで字を作ることにした。

7月21日に初めて作

で家族や友人と会うことができない入院患者に向け「笑顔届け」。そして今回作ったのは「希望 信じて」の文字。コロナ禍の中で県民が希望を持つと一緒に頑張ろうとの思いを込めた。

同センターによると、看護師や入院患者も文字を見ているといい「楽しみができた。うれしい」との声が聞かれるという。

サークル副部長の長野青葉さん(20)は「社会福祉学部3年」は「コロナはなかなか落ち着かないと思うけど、ウィズコロナ時代の医療、福祉のあり方を私も考えていきたい」と話している。

メッセージは11日に4作目を作る予定。

(高井美咲)